

(様式1)

職業実践力育成プログラム(BP)への申請について

令和3年10月5日

①学校名:	横浜市立大学	②所在地:	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22-2		
③課程名:	YCU病院経営プログラム	④正規課程／履修証明プログラム:	履修証明プログラム	⑤開設年月日:	平成30年4月1日
⑥責任者:	横浜市立大学附属病院病院長 後藤 隆久	⑦定員:	25名	⑧期間:	1年
⑨申請する課程の目的・概要:	高齢化とともに急速に変化する医療環境に病院を適応させ、医療機関の健全経営、複雑な都市の医療システム構築に貢献できる経営人材を育成することを目的とする120時間の履修証明プログラムである。Eラーニングや研究会、シンポジウム、ケースディスカッション、特別研究など多彩な教育機会を提供するほか、行政や医師会、病院協会等とも連携する。これらプログラムを通じて(1)医療安全や病院管理等の基本的資質に加え、地域ごとの医療環境の中での自院の戦略的ポジショニングを考え病院を変革する力、(2)地域の医療・介護システムを構築する中で大学ならではのリーダーシップを発揮し、病院単独ではできない経営問題をその地域の行政・医療・介護の担い手・住民等と協働しながら解決する力を養う。				
⑩4テーマへの該当の有無	⑦医療・介護	⑪履修資格:	学校教育法第90条に規定する大学に入学することができる者かつ医療または行政関係の職務に3年以上携わっている者		
⑫対象とする職業の種類:	医師・看護師・保健師・助産師・薬剤師、検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、福祉士、病院事務管理職、医療行政職、診療情報管理士、医療事務、民間企業社員				
⑬身に付けることのできる能力:	(身に付けられる知識、技術、技能) ・医療安全や病院経営・管理に関する知識 ・地域の医療システム全体への理解		(得られる能力) ・リーダーシップ、変革力、協働力、マネジメント力		
⑭教育課程:	①医療政策・経営学のうち政策学では、医療における管理者の視点を養成すべく、病院、保険者、横浜市、神奈川県、国の5つの立場から包括的に医療政策について学ぶ。経営学では、病院経営の理論と実践について、DPCおよび原価情報の活用による経営改善や医療情報データの2次利用等に触れ、病院が地域の中でとるべき戦略的ポジショニングや経営管理方法について学ぶ。忙しい社会人に配慮して、Eラーニングも配信。(15時間) ②「安全管理学・ガバナンス」のうち安全管理学では、安全管理の理論と実行について学ぶ。ガバナンスでは、ケースディスカッション方式で病院教職員のやりがいを高め、病院の理念や行動規範を浸透させる方法を学ぶ。(15時間) ④特別研究は、ケースディスカッション及び研究の2つの要素で構成される。前者では、事前に1つ又は複数の事例(ケース)を取り上げ、課題と共にケースを事前に読み込ませる。ケースディスカッション当日は、本学附属病院長や、その他病院経営の実地家やプロ等をディスカッションリーダーとし、履修生間のディスカッションを経てケースへの理解を深める。後者では履修生がそれぞれ実際の職場の課題などからテーマを決め、それぞれに配置されるコーディネーターの指導を受けながら特別研究報告書をまとめる。(45時間) ⑤選択科目では、医学研究科に加え学内の国際マネジメント研究科のソーシャルイノベーションプログラム等の指定科目群から2科目を選択し、看護あるいはソーシャルイノベーションやマネジメントにかかる知識を増強させる(45時間)				
⑮修了要件(修了授業時数等):	120時間				
⑯修了時に付与される学位・資格等:	履修証明書が付与される				
⑰総授業時数:	120 時間	⑱要件該当授業時数:	75時間 ~120時間	該当要件 企業等 双方向 <input type="checkbox"/> 実務家 <input type="checkbox"/> 実地	⑲要件該当授業時数 ／総授業時数: 62.5% ~100%

⑳成績評価の方法:	120時間の課程の修了及び特別研究報告書。また、中間報告及び特別研究の最終報告会でのプレゼンテーション審査に合格することを経て修了とする。
㉑自己点検・評価の方法:	学校教育法第109条第1項に定める評価を実施する。また、履修生への授業アンケート及びプログラム終了後のプログラムアンケート及び外部評価委員会によるプログラム評価を受けた教育内容の改善を行う。また、自己点検・評価の結果を公表する。
㉒修了者の状況に係る効果検証の方法:	修了生に翌年度以降に研究の成果により現場の課題がどう改善されたシンポジウムに登壇して発表してもらう。また横浜市立大学附属病院および附属市民総合医療センターにおいて、修了生を中心に構成されている経営改善ワーキングからの、両病院への経営改善の提案内容などの検証。
㉓企業等の意見を取り入れる仕組み:	(教育課程の編成) 履修生は病院、医療系企業、行政等から来る。授業後に履修生による授業アンケートを行い、その希望により授業内容を年度途中でも柔軟に調整する。優れた現場の視察等も、コロナ前は行っていた。また公開シンポジウムを毎年行っており、そこでも授業内容について希望調査をしている。 (自己点検・評価) 上述の事業アンケートと、コース修了時の履修生アンケートにより評価を行う。また外部の病院長や薬局経営者などにより構成される外部評価委員会による評価をプログラムに反映している。
㉔社会人が受講しやすい工夫:	週末開講、Eラーニングの活用、ハイブリッド授業(オンラインと対面)の実施
㉕ホームページ:	(URL) <a href="http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~hp_mgt/">http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~hp_mgt/</a>

事務担当者名:	胡子(えびす)	所属部署:	医学教育推進課医学国際化等担当
連絡先:	(電話番号) <a href="tel:045-352-7968">045-352-7968</a> (E-mail) <a href="mailto:hp_mgt@yokohama-cu.ac.jp">hp_mgt@yokohama-cu.ac.jp</a>		

\* パンフレット等の申請する課程の概要が掲載された資料を添付してください。

\* 様式に記載いただいた内容と欄外の「※集計用データ(文部科学省使用)」に記載の内容が、一致しているかを必ずご確認ください。